

かつどうめい
活動名

たけ 竹はし

<活動の特長>

- ・ やませみ^{しゅうへん}周辺^{たけ}の竹^{つか}を使ったものづくりを通して、自然^{とお}の資源^{しぜん}を活用^{しぜん}してきた先人^{かつよう}の知恵^{せんじん}にふれることができます。そして、竹^{たけ}と人^{ひと}のくらしとのつながり^{かんが}を考え、自然^{しぜん}やものを大切^{たいせつ}にする気持ち^{きも}をもつことができます。
- ・ 前半^{ぜんはん}は、友だち^{とも}と協力^{きょうりょく}して作業^{さぎょう}を進める^{すす}中で、集団^{なか}で物^{もの}を作る^{つく}楽しさ^{たの}を味わう^{あじ}ことができます。後半^{こうはん}は、工夫^{くふう}をこらして竹^{たけ}を削^{けず}ったり仕上げ^{しあ}をしたりする過程^{かてい}で、それぞれの個性^{こせい}を発揮^{はっき}したり、ものづくりに必要^{ひつよう}な集中力^{しゅうちゅうりょく}を身につけ^みたりすることができます。

<めあての例>

- ・ 自然^{しぜん}「竹^{たけ}のよさを感じ^{かん}、世界^{せかい}に一つ^{ひと}だけのはし^{つく}を作ろう」



＜大まかな活動の流れ＞

①めあて・作業手順・注意事項を確認しよう



④各自で削ろう



段々なめらかになってきたぞ。竹って手触りがいいなあ。

⑤やすりで仕上げよう



⑥まとめ・振り返りをしよう

②班ごとに竹を切ろう

※「一あた半」ってこのくらいだね。



③竹を割ろう

この辺かな？



もう少し手前だよ。



昔の人はこうやって苦労して道具を作っていたんだなあ。世界に一つだけのはしなので大事に使いたいなあ。

次へのステップ

身近な道具で、竹から作られているものを探してみよう！

＜メモ＞

- ・竹林間伐と組み合わせたり、食の活動と組み合わせたりすることによって、竹と人のくらしとの関係について、さらに深く考えさせることができます。
- ・登山等の計画が雨天中止の時に、この活動に振り替えることができます。また、どの工程から始めるかによって活動時間を調整することができます。

※「一あた」とは、手を開いた時の、親指から中指までの長さ。はしの長さは「一あた半」がちょうど良いとされている。